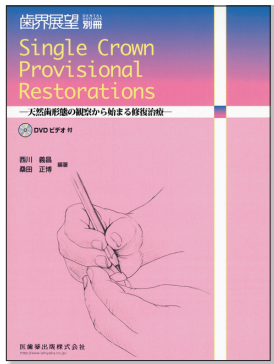


Single Crown Provisional Restorations —天然歯形態の観察から始まる修復治療—

土屋和子（歯科衛生士）



A4 判変形 / 152 頁
定価 5,775 円
(本体 5,500 円 + 税 5%)
医歯薬出版刊
(2010 年 12 月発行)

「一時的なという意味をもちながら、なぜテンポラリー (*temporary*) ではなくプロビジョナル (*provisional*) という形容詞がつくのかといえ、この修復物のコンセプトが *temporary* (一時的な) という時間の経過に主眼を置くものではなく、*provision* (準備) すなわち、*pro* (前の、代わりの) *visional* (未来像)、つまり、理想的な修復物の代わりを務めるといふことに主眼を置いたものだからである。

つまり、プロビジョナルレストレーションとは、(中略) 最終的な修復物の理想形態を探ることに主眼を置いたものなのである」

これは、本書の序文に書かれた言葉である。いまから約 30 年前、米国での補綴学会で発表されたこの「プロビジョナルレストレーション」が日本に紹介されたとき (1981 年ごろ)、日本の SJCD (現在、会員数 1,700 名を超えるスタディグループ) がいち早くそのコンセプトを臨床に活かそうとした。ときは、ポーセレンが脚光を浴びた補綴時代の幕開け。世の中は、バブル以前の浮き立った経済状況にあった。補綴修復を過剰に行う「オーバートリートメント」なる見方が出る

前のことである。そんななか、時間をかけて補綴・修復物と生体の調和を模索しながら最終的な補綴・修復歯の形を追求するプロビジョナルレストレーションの手法は、「診療時間を長く必要とする無駄な手法」とも考えられた。「仮歯」の作製に時間とお金をかける、その手間を惜しんだのである。

当時、私はロサンゼルス補綴専門医として最高峰にあった Dr. Raymond L Kim のもとにいた。1 歯のプロビジョナルクラウンをチェアサイドで作製するのに、2 時間、3 時間とかかる。しかも、この作業は一度では終わらない。数日の期間を経て再度、修正がなされる。「形態・マージン部・咬合……それらがその人の生体に調和するかどうか。それを見極める段階として、これほど貴重なステップはない」そう教えられた私は、この段階を経ずに最終補綴物を作製することは奢った考えではないかと思っている。もし、金属やセラミックスなどの最終的な材料を使って作製したなら、それこそ修正ができない。

歯科衛生士ならば、このプロビジョナルレストレーションの期間が、どのようにセルフケアをしていくかを見極める貴重な時間となる。最終補綴物に近い形態での清掃方法を患者さん自身でマスターしていただく、あるいは清掃できない部分の形態修正を行う。最終補綴物が口腔内で生体と調和し、トラブルのない状態をより長く継続するためにも、プロビジョナルレストレーションは必要不可欠な手法である。

そのプロビジョナルレストレーションについて解説した本書は、歯科衛生士にとっても重要な教科書であるといえる。